「登録販売者」受験対策講座の実施報告

濵　口　な ぎ さ

Report on “Registered seller” exam preparation course

Nagisa HAMAGUCHI

キーワード：登録販売者、対策講座、資格試験

１．はじめに

平成29年度のビジネス・医療秘書コース卒業生の就職状況を見てみると、医療事務50％（13人）、一般事務30.8％（８人）、サービス15.4％（４人）、営業3.8％（１人）となっている。卒業生の半数を占める医療事務では、13人中４名が調剤薬局へ就職しており、過去５年間で最も多くなっている。また、４人全員が就職先から、就職したら登録販売者の資格を取得するよう要請されていた。

本学の生活創造学科ビジネス・医療秘書コースで取得できる医療関係の資格は「医療管理秘書士」と「病歴記録管理士」の２種類である。これらは、診療所や病院で医療事務として働くために必要な知識や技能を身につけることを目的とした資格である。特に「医療管理秘書士」は卒業生の80％前後が取得している。

これら２つの資格に加えて、在学中に登録販売者の資格が取得できれば、医療事務、特に調剤薬局への就職を希望する学生達にとって有利となると考え、平成30年度より登録販売者受験対策講座を開講することとした。本稿はその実施報告である。

２．登録販売者とは

平成18（2006）年の薬事法改正に伴い、それまで薬剤師にしか認められていなかった一般用医薬品（OTC 医薬品）の一部を販売できる専門家として、「登録販売者」制度が創設された。

創設当初の受験資格は、薬局・薬店での２年以上の実務経験が必要とされていたが、平成27（2015）年度より、実務経験、学歴等は不要となり、誰でも受験可能となっている。

登録販売者試験は、厚生労働省作成の「試験問題の作成に関する手引き」に従い、都道府県単位で年１回以上実施されている。

長崎県では平成20年度のみ２回実施されているが、平成21年度から今年度までは年１回12月に実施されている。平成29年度までの10年間に、延べ4,670名が受験し、1,995名が合格している。各年度の合格者数と合格率は図１で示したが、長崎県の合格率は平成28年度を除き、全国の合格率を下回っている。

毎年本コースのほぼすべての学生が受験している秘書検定２級と登録販売者の合格率を比較してみると、前者の全国平均の合格率は例年50～60％（本学30～50％）、後者は40％半ばで推移している。

しっかり準備をすれば合格が望める秘書検定２級であっても、残念ながら合格率が全国平均を下回っている本学学生にとって、登録販売者試験に合格することは難関であることが予想される。

そのため、本コースの学生が登録販売者試験の合格を目指すためには、自主性に任せるのではなく、受験対策講座を開講し継続して学ぶ習慣付けを行うことが効果的であると考えた。

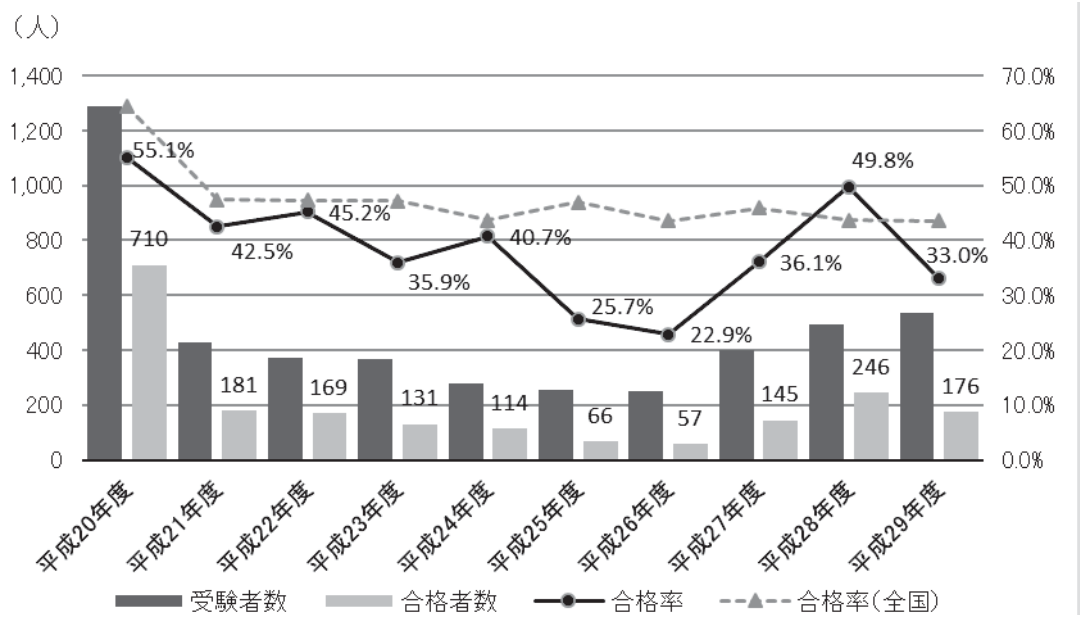

図１　長崎県の登録販売者試験実施状況（厚生労働省医薬食品局のデータをもとに作成）

表１　長崎県の登録販売者試験の概要

試験項目	出題数	試験時間
医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問（20点満点）	120分
人体の働きと医薬品	20問（20点満点）	
医薬品の適正使用・安全対策	20問（20点満点）	
主な医薬品とその作用	40問（40点満点）	120分
薬事関係法規・制度	20問（20点満点）	

２．１．試験範囲

長崎県で実施されている登録販売者試験の試験項目と出題数、試験時間は表１のとおり。すべての問題が選択式の択一式で出題され、筆記試験形式で実施されている。

なお、合格基準は、下記２つの基準を同時に満たすものを合格者とすると定めている。受験料は下記のとおり。

基準１　実施するすべての試験科目の得点の総合計が、満点の７割以上である者

基準２　実施する試験科目別得点が、科目ごとの満点の3.5割以上である者

受験料　13,000円（平成30年度、長崎県の場合）

３．受験対策講座の実施内容

登録販売者試験の受験対策講座は、本コースの医療事務関係の科目を担当していることもあり筆者が担当することとなった。しかし、登録販売者について詳しいわけでもなく、受験経験もないことから担当者として適任とは言い難かった。

そこで、受験対策講座ではあるが、受験を希望する学生達と共に助け合いながら筆者も一緒に学び、受験し、合格することを目指すというスタンスで臨むこととした。しかしながら、全てを学生と同じ立ち位置で臨むわけではなく、スケジュール立案と過去問収集、参考書や問題集の提供などは筆者が担当することとした。

今年度当初４月の時点で、１・２年生に登録販売者対策講座の開講について連絡し、希望者を募ったところ、１年生４名が受講した。

４．受験対策講座の実施スケジュール

対策講座は毎月１回、表２のスケジュールで実施した。具体的には、「反転授業」に類する形式をとることとし、４月のガイダンス時に、学生たちにテキスト（含問題集）を貸与して自主的に勉

表２　受験対策講座の実施スケジュール

回	実施日	内容
1	４月20日（金）	ガイダンス、テキスト貸与
2	５月18日（金）	模擬試験「医薬品に共通する特性と基本的な知識」
3	６月29日（金）	模擬試験「人体の働きと医薬品」
4	７月20日（金）	模擬試験「医薬品の適正使用・安全対策」
5	10月17日（水）	模擬試験「主な医薬品とその作用」
6	10月31日（水）	模擬試験「薬事関係法規・制度」
7	11月７日（水）	苦手分野の克服
8	11月15日（木）	苦手分野の克服
9	12月５日（水）	苦手分野の克服
	12月９日（日）	受験日

強するよう促し、５月から実際の試験項目単位で模擬試験を実施して学習の成果を確認し合った。模擬試験は実際の試験時間に準じて行い自己採点で確認したが、その際には一問ずつ丁寧にテキストの掲載箇所を確認し、解説を詳しく読み込み、知識が深まるよう配慮しながら進めた。

なお、模擬試験には、過去問である平成29年度の長崎県の試験問題を使用した。

また、長期休暇中に集中して準備できるよう、夏休み前にはテキストの他に過去問題集を貸与した。事前の調査で最も点数が取りにくい試験項目であると判明していた「主な医薬品とその作用」について、万全の対策を講じる必要があると考えたからである。

そのため、夏休み明けの10月に「主な医薬品とその作用」の模擬試験を実施するようなスケジュールにし、学習時間が十分に確保できるよう配慮した。

なお、試験案内や受験申請書等は筆者が準備したが、受験申込期間が夏休み中ということもあり、申請そのものは学生自身が行った。

５．結果と考察

平成30年12月９日（日）の受験後、12月13日に長崎県薬務行政室のサイトに公開された正答を元に各自で自己採点を行った。自己採点の結果、試験項目によってかなりのばらつきがあり、特に「主な医薬品とその作用」はぎりぎりで3.5割に至ったかどうか、他の試験項目も基準を十分に満たしているとは言えない学生がほとんどで、合格は難しい状況であった。合格者の発表は平成31年１月16日（水）であったが、筆者のみ合格し、残念ながら受験した学生は全員不合格であった。

５．１．アンケート調査

受験対策講座の実施内容を見直し、次年度に生かすことを目的として、受験した４名の学生にアンケート調査を行った。調査項目は下記のとおり。

①対策講座の日程
②対策講座の内容
③試験内容で難しいと感じたところ
④今後の資格取得希望について
⑤全体的な感想

アンケートの結果、「①対策講座の日程」については、月２回（隔週）希望と月１回（今年度と同じ）が半々であった。対策講座の回数については、教員と学生の時間調整が難しいこともあり、今年度は月１回の実施であったが、次年度は内容によっては月２回の実施も検討したい。

「②対策講座の内容」についても、反転授業形式（今年度と同じ）と通常授業（教員による講義）の希望が半々であった。今年度は筆者も学生と共に学びながら手探り状態での実施ということもあり、講義を担当することはできなかったが、次年度は内容によっては講義形式で実施してみたいと考えている。

「③試験内容で難しいと感じたところ」は、予想通り全員が「主な医薬品とその作用」を上げていた。

表３は、「主な医薬品とその作用」の試験項目

表３　かぜ薬に関する出題（平成30年度長崎県）

かぜ薬に配合される成分と、その期待される作用の関係について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

成分		作用
ア　トラネキサム酸	―	くしゃみや鼻汁を抑える
イ　グリチルリチン酸二カリウム	―	炎症による腫れを和らげる
ウ　エテンザミド	―	発熱を鎮め、痛みを和らげる
エ　ジフェンヒドラミン塩酸塩	―	咳を抑える

１（ア、イ）　２（ア、エ）　３（イ、ウ）　４（ウ、エ）

の中で、かぜ薬の成分について平成30年度の長崎県の試験で出題された例である。

「トラネキサム酸」や「エテンザミド」などは、テレビで流れるかぜ薬のコマーシャルで耳にしたことがある成分名である。しかし、学生たちはテレビ番組を「放送」という形で見ることが少なくなっており、Youtube や Tver などのアプリを利用してアップロードされたり「見逃し配信」された番組を視聴するため、コマーシャル部分はカットされており、上記のような成分名を耳にする機会が減少していることが考えられる。学生たちも、大部分の成分名は聞いたことがないと答えていた。

筆者の主観ではあるが、普段なにげなく接しているテレビコマーシャルなどを通して、一度でも耳にしたことがある言葉と、まったく初めて聞く言葉では、覚え方に差が出ると思われる。

かぜ薬の他にも胃腸薬、痔疾用薬、滋養強壮保健薬や漢方処方製剤等に配合されている膨大な数の成分名と作用を暗記しなければ解答できない問題が大部分を占めるため、全員が苦手と感じたことは当然だと思う。

暗記の方法については、地道で確実なノートにまとめる方法を学生達には勧め、書くことによって覚えることを期待したが、実行したかは確認できていない。

次に苦手だと感じていた「薬事関係法規・制度」については、座学だけでなく、ドラッグストア等の実店舗に出向き、法律や制度がどのように実践されているのか、医薬品の陳列の状態や、パッケージに書かれている内容、掲示されている情報などを確認することで、知識の定着につながると思われる。

また、「人体の働きと医薬品」については、高校時に「生物基礎」または「生物」を履修しているか否かによって、理解度が変わってくると思われる。高校学習指導要領によると「生物基礎」では、例えば「生物の体内環境の維持」として、自律神経やホルモンについて学ぶことになっており、試験内容との関連が伺える。今回受験した学生のうち１名が、高校で生物関連科目が受講できておらず、不利に働いた可能性がある。

以上のような結果をもとに、どのような勉強方法が有効であるか研究を重ね、学生の指導に生かしたい。

「④今後の資格取得希望について」は、全員が登録販売者の資格を取得したいと回答した。その理由としては、「せっかく勉強したから」、「自分自身が薬を選ぶ時にも役立つから」、「登録販売者としてドラッグストアで働いてみたい」、「医療関係の職種を目指しているので自分の知識を増やしたい」と前向きな回答が出揃った。今回不合格であっても再チャレンジしたいという意向を全員が示していたことは、登録販売者という資格に対して魅力を感じたからではないだろうか。

「⑤全体的な感想」としては、勉強時間の確保や計画的に継続して勉強する習慣を身に付けるのに苦労し、努力が足りなかった、もう少し頑張ればよかったとの回答が目立った。

6．おわりに

平成30年度の１年生対象の学内調査によると、「高等学校等在籍時代の授業期間中、授業以外で勉強に費やした１週間の合計時間はどのくらいでしたか」という設問で、本コースの学生は「全くしなかった」31％､「若干～１時間未満」23％､「１～５時間未満」31％となっており、自宅等での学習習慣が身についていない学生が入学していることが伺える。

また、短大入学後にアルバイトを始める学生も多く、面談等で確認した記録を見ると週３～５日のシフトで働いている割合が高いことが分かり、自宅等での学習時間の確保は望み薄の状況である。登録販売者に限らず、本コースで合格を目指している他の検定試験においても継続した自主学習時間の確保が課題であると感じている。

登録販売者受験対策講座を実施し、アンケート調査を行った結果、学生たちはこの資格に魅力を感じ、身に付けた知識も無駄にはならないと感じていることが分かった。

残念ながら全員合格という結果にはならず、担当者としての力不足を感じており、学生達にも申し訳なかったと思っている。

次年度はこの資格の魅力を学生達に伝えて受講者を増やすとともに、対策講座の充実を図り、一人でも多くの学生が合格できるよう力を尽くしたい。

参考文献

1）ユーキャン・登録販売者試験研究会編.「U-CANの登録販売者速習テキスト＆重要過去問題集」. ユーキャン学び出版. 2018

2）堀美智子.「７日間でうかる！登録販売者テキスト＆問題集2017年版」. 日本経済新聞社. 2017

3）新井佑朋.「登録販売者試験対策必修ポイント450 2018年版」. 秀和システム. 2018

4）コンデックス情報研究所.「超重要！登録販売者過去問題集 '18年版」. 成美堂出版. 2018